

女性医師の窓

『3人の女友達』

太郎田医院 多賀 浩美

その壺：ミチコさま

携帯メール往信(ヒロミ)「自宅から高速で30分の、加賀の国の篠原、すなわち加賀市の片山津温泉にあります。ここにある首洗池は、京都南座“実盛物語”の尾上菊五郎さんの役、斉藤別当実盛の最期の地です。芭蕉の“無残やな兜の下のきりぎりす”の歌碑もありました。」携帯メール返信(ミチコ)「首洗池とは本当にあるのですね。実盛が髪を染めて出陣した話が、毎日新聞に出ていました。つい先日観劇したような感じで、懐かしいです。」ミチコさまとは昨年の京都市内定期観光バスで隣に乗り合わせた女性で、「エリザベートの星型の髪飾りですね、私も同じものを持っています」と声をかけられました。彼女は東宝ミュージカルのロビーで、私は京都市美術館のハプスブルク展で購入したものです。尾上菊五郎ファンの彼女はバスツアーの前日の土曜日、仕事帰りに東京で新幹線に飛び乗り、南座の顔見世歌舞伎(夜の部)を観て、京都タワーホテルに一泊したとのこと。私はバスツアーの後、同じ歌舞伎を観る予定でした。メルアド交換し、おりおり文楽・演劇や落語などの話題でメールする年上の“メル友”を得ました。

その貳：襖絵師の島田由子画伯

高校時代に金沢市十一屋町で1年間、一緒に下宿して、一緒に受験勉強した仲間です。彼女は金沢美術工芸大学を目指していたので、石膏デッサンに使うパンの耳をパン屋さんにもらいに一緒に行ったり、英単語を覚えたり、お風呂屋さんに行ったりしました。無事ふたりとも第一志望に合格し、彼女の叔父さんがシドニーにいたことから、夏休みにオーストラリアへ初めての海外旅行を一緒にしました。卒業後は千葉と金沢に別れ、年賀状を交わすだけでしたが、一昨年になって彼女が美大の同窓会の世話役としてしばしば石川に来ていることが分かりました。何十年振りに一緒に下宿を訪ねて、親交が復活しました。彼女が手がけた鎌倉のお寺の天井画を私の夫が見に出かけたり、ふた夫婦で辰口温泉まつさき旅館に宿泊したり。そして、今年1月21日には白山市のギャラリー『ノア』で島田さんと私の夫が共同制作した作品が展示され、映画「ハチミツとクローバー」に出てくるオープニングパーティーのような夢体験をさせてもらいました。1週間の展示の最終日には我が家の一泊され、私の娘と3人でワインパーティーを開催。彼女にも1つ上のお嬢さんがおり、娘はいろいろとアドバイスをもらっていました。ご実家のお母様が今まさに介護状態ということで、寝床でもつい話し込み、明け方4時まで語り続けました。

その参 H. Reiko 博士

彼女は大学時代にお昼を一緒に食べていた同級生です。優秀な人で、私が夫の留学でワシントンに滞在していた折、ワシントンでの学会に演題を出して、お母様と一緒に訪ねて来られました。その数年後には、ボストンのハーバード大学に一人で留学。一昨年亡くなられたお父様は器用な方で、古びたアンティークの西洋家具を買いつけ、自分でこつこつと修復されて、岐阜のご自宅の電気店はまるでアンティークショップのようでした。お父様がお元気な頃、信楽のアンティーク・ショップを案内して頂いた思い出があります。お母様は長く茶道をされていて、手作りの和菓子とともに抹茶をご自宅でご馳走になりました。ご主人を亡くされてお母様が少し気落ちしておられたので、京都市西本願寺の国宝飛雲閣と白書院の特別拝観にお誘いしました。昨年はH先生が福井で学会発表があったので、金沢まで足を延ばして頂き、その母娘と私の3人で長町界限お茶文化の展示や東山茶屋街、金沢大学の医学展に行き、お母様からも明るい笑顔がこぼれました。



正法院の天井画

以上、かくも女性たちは仕事・子育て・介護に係わりながら、めげずに楽しいことも追っかけております。